

## European Society of Anaesthesiology Congress (Euroanesthesia 2014)



大岩 彩乃

東邦大学医学部麻酔科学講座 (大森)

2014 (平成26) 年5月31日~6月3日にStockholm (Sweden)にて開催されたEuropean Society of Anaesthesiology Congress (Euroanesthesia 2014) に演題採用され、ポスター発表をさせて頂いた。Euroanesthesia は世界最大の麻酔科学会の1つで、世界中から毎年1万人超の参加があり、さまざまな麻酔および麻酔関連分野における最先端の情報が集まる場であり、多くの刺激を受けた3日間であった。

演題は麻酔深度を心拍変動解析より予測する、という周術期侵襲学に関する報告、「Diagnostic prediction of minimum alveolar concentration that blocks adrenergic responses by using heart rate variability during desflurane-remifentanyl anesthesia」であった。概略は、麻酔深度を予測するには一定の侵襲に対する生体反応を観察(古くは痛みに対しての体動や発汗および瞳孔散大等)することで測っていたが、心電図より得られる心拍変動解析により非侵襲的に得られないかという研究の報告であった。

心拍変動解析は集中治療領域や内科領域で自律神経の交感・副交感神経成分の定量的測定法として注目されている。今回の研究では、心拍変動解析で得られた低周波波長域 (low-frequency : LF) と高周波波長域 (high-frequency : HF) 成分の比で得られる交感神経成分である LF/HF 比に着目した。近年主流の麻酔方法である短時間作用型吸入麻酔薬 (desflurane) および超短時間型麻酔薬 (remifentanyl) 使用下の腹腔鏡下胆嚢摘出術において測定し、執刀開始前後の LF/HF 比が大きく (1.15 以上) 上昇した場合に交感神経反応と考えられる平均血圧 20mmHg 以上の上昇がみられ、おそらく執刀開始前後の LF/HF 比をリアルタイムで測定することで麻酔深度の推定が今後可能であると考察した。

学会場は質疑応答も非常に活気に満ちており、当該セッ



学会会場にて



ストックホルムの街並み

ションでもポスターを見て話しかけてくる人があり、今後の研究に対する提案をして頂いたりと有意義な時間を過ごすことが出来た。

ヨーロッパ圏のみならず米国やカナダ、アジア圏からの参加者も多く、日本人も想像するより多かった。既知の先生方ともお会いし、そのような方々と英語や日本語で交流するのは本当に楽しい時間であった。

機器展示も国内に輸入されていない新しい循環動態モニタリングの機器や、小児気道確保の器具、神経ブロックの斬新な道具などがあり、いくつかについては帰国後情報を

頂くことができた。

海外での学会発表は他国の医師達とコミュニケーションをとることが出来、自分の新たな目標を設定する上でも非常に有益と考える。今回は麻酔科学講座（大森）より自分を含め、若手医師が何人か参加しそれぞれ活発に質疑応答するなどしていたが、海外渡航の経験を、身近な臨床に反映できる機会を得ることは素晴らしい財産になると思う。最後に今回、このような機会を与えて頂いた落合教授と指導教官の寺田先生および医局員の皆様に心より感謝致します。